

一貫教育校の広場

ニューヨーク学院
(高等部)

女子高等学校

志木高等学校

高等学校

湘南藤沢
中等部・高等部

中等部

普通部

横浜初等部

幼稚園

TEDx Keio High School 開催のキセキ

● 高等学校 教諭 北川 彩きたがわ あや

第一外国語科の教員室の左にある階段は社会科教室へと続いている。2年ほど前、夕日がきれいと言われて初めてその階段を上ってみると、目に入ってきたのは昭和初期の小学校にありそうな廊下。けれども、広く細長い長方形の形をした教室は、イベントを開くにはちょうどよい設備を有している。2016年3月13日、その空間は心地よい感動に包まれた。

「慶應義塾の高等学校を結びつけるTEDを塾高で開きたい」。そう生徒から相談を受けたとき、TEDを開催するとはどういうことなのか、私はよくは理解していなかった。それでも力を貸そうと決めたのは、何もないところから何かをしたいという生徒の気持ちが心に響いたからだだった。

TEDとは、米国で人気のプレゼンテーションイベント「TED Conference」のこと、それを独自のかたちで行う派生型は「TEDx」と呼ばれている。今回、高等学校で開催したのはこの「TEDx」である。いずれも、登壇者が自分の経験やアイデア、そこから導き出される提案などを自由に表現して伝えることを目的としている。

まず持ちあがった課題は、会場をどこにするのかということ。生徒会の協力を得て、塾高開設70年事業の一つとして学校から認められた後も、会場探しは難航した。さらに、TEDxを開催するためには、TEDの主催団体からライセンスを取得しなければならない。応募のための



やり取り、書類の記入、主催団体が行うインタビュー（面接）など、すべてが英語。開催を企画する生徒にとってはこれも大きな壁であった。書類を幾度も書き直し、早朝のインタビューには原稿を用意して臨んだ。

この時点での私の気持ちを正直に述べれば、生徒だけの力で開催までこぎつけるのは難しいのではないかと思っていた。ようやく会場が決まり、ライセンスを取得し、登壇者・オーディエンス・ボランティアの募集をしても、イベントがどのようなものになるのか、想像も及ばない部分があった。各方面へ交渉にあたり、「TEDって何ですか？」から始まることもある。ハードルが想像以上に高かった。

けれども、どんなに大きな問題があっても最後までサポートしようと思えたのは、一つひとつのハードルを彼らが自分の力で越えてきたからである。「ここはどうするの？」と私が投げかければ、解決策を考えてくる。どんな問題に対しても、である。私から何かを提案したことは一度もない。目の前にある困難にどう対処するのか、生徒自身が知恵を出し合って考え、解決してきた。自らの力でどんどん輪を広げ、諦めない強い気持ちで取り組む彼らを、私は信じることにした。当日は、各一貫教育校の高校生をはじめとする多くの参加者が集った。会場のスクリーンの下に置かれたTEDの文字は、四の文字が横長でアンバランスだった。その心温まる手作り感こそが、今回のTEDxのすべてを象徴していただろう。多くの人の心に残る空間を作り上げた彼らを誇りに思う。